

八丈島

毎日新聞旅行 13～15日

22時30分に竹芝桟橋を出港して、連絡船の橘丸で三宅島と式根島を経由して八丈島に着いたのは翌朝の8時50分である。10時間半の船旅は長い、良く寝られたのでそれほど苦痛ではなかった。午前の部はタクシーで八丈富士登山口まで行って八丈富士(854m)登山。午後の部は八丈三原山(701m)である。

天気予報はこの日だけ雨であった。前後はすべて晴れであるのに。船を降りて八丈富士登山口に行ったときはパラパラ程度の雨であった。しかし登るにつれて雨足は強くなり、お鉢周りの取付きに着いた時には結構強くなりその上風がものすごく吹き付けた。立っているのもやっとといえるくらいであった。このため当初予定のお鉢周り一周の計画はピストンに変更された。ふれあい牧場というところで昼食のお弁当を食べたが、屋根のあるところではあったが、濡れた体には寒かった。午後は再びタ



クシーで八丈三原山の麓まで移動である。これも雨のため縦走の予定をピストンに代えた。雨はますます強くなり、勢いペースもすごいスピードになってしまった。ついてこれないであきらめて戻ってしまった人も出た。登りの時も雨は強かったが、登頂後の降りになって、道が川状になる程雨は強くなった。そんな状態であったので、登頂後に予定されていた観光も削除された。もちろん両方の山とも山頂から



連絡船 橘丸



船から見た早朝の八丈富士

の景色など望べきも無い。

ツアーリーダーは多彩な趣味人の押田さんと、花岡さんとガイド最長老を争う桜井さんである。二人とも八丈島には何回も来ているようで細かいところまで知っている。この日の桜井さんの天候判断は素晴らしかった。押田さんは釣りとか魚に関してもケッコウ詳しかった。またフェイスブックを開くと、スパゲッティ料理なんかでも得意らしい。

メンバーはジジイが6名とババアが7名。もっとも土日の催行であるので、ジジババの仲間にしてはかわいいそうな人も何人かいた。ジジイにはデブ系も多かった。

最終日は、朝飯前に八丈小島を見ることが出来る宇喜多秀家の像のある海岸に出かけた。ジジイの一人がやたら歴史に詳しく、盛んにうんちくを垂れていた。私は宇喜多秀家なんて言う名前は今回初めて知った。これも問題かもしれない。雨上がりの海岸では素晴らしい二重の虹を見ることができた。二重の虹は2月の飯盛山でも見た。何かいいことがあればうれしいのだが。



宇喜多秀家の像



八丈小島と二重の虹

八丈島は2回目である。55年前に東京電機大学ワンダーフォーゲル部の一員として1週間くらい合宿を行った。この時は八丈富士に登ったことは当然として、島の西側をぐるっと回ったり、今は無人島になっている八丈小島へも牛と一緒に船で渡ったりした。今回のまいたびの企画に乗ったのはそのノスタルジーとでも言えようか。あの時は船も500トンくらいでものすごく揺れた。おまけに八丈島の港には接岸できる岸壁がなく、はしけで渡ったものである。

